



円空の肖像画
(飛騨千光寺蔵)

円空略年譜

- | | |
|-------------|--------------------------------------|
| 1632 (寛永9) | 美濃国に生まれる。 |
| 1663 (寛文3) | 郡上市美並町の神明神社の神像などを彫る。 |
| 1666 (寛文6) | 北海道に渡り、多数の仏像を彫る。 |
| 1669 (寛文9) | 関市雁曾礼の白山神社の聖観音などを彫る。 |
| 1671 (寛文11) | 三和町廿屋の観音洞にこもり、馬頭観音などを彫る (40歳)。 |
| 1674 (延宝2) | 三重県志摩市の三蔵寺の大般若経六百巻を修復し、扉に添絵を描く。 |
| 1675 (延宝3) | 大峰山で修行をする。 |
| 1676 (延宝4) | このころ、名古屋市の荒子観音に滞留し、千数百体の仏像を彫る。 |
| 1679 (延宝7) | このころ、市内の観音3体を彫る。 |
| 1684 (貞享元) | 関市洞戸の高賀神社に滞留する。 |
| 1686 (貞享3) | このころ、飛騨、木曾に滞留する。 |
| 1689 (元禄2) | 関市池尻の弥勒寺を再興する。 |
| 1690 (元禄3) | 高山市上宝町で今上皇帝像を彫る。 |
| 1691 (元禄4) | 太田町井ノ上観音堂で十一面観音三尊を彫る (60歳)。 |
| 1695 (元禄8) | 7月15日、関市池尻の弥勒寺下の長良川河畔において入定する (64歳)。 |

十二万體造像を祈願し、全国を遊行した円空
円空仏の「ほほ笑み」は、
苦しむ民衆に安らぎを与えてきた

円空は、寛永9(1632)年美濃国で生まれ、十二万體造像を祈願し、全国を遊行しながら多くの仏像を制作しました。

機だといわれています。母の菩提を弔うため、仏門に入った円空は、青年時代は白山や伊吹で山岳修行を重ねました。それから美濃、飛騨、尾張を中心として、遠くは北海道、また、関西、関東と修行を重ね

るために行脚し、各地で仏像を制作してきました。これまで全国で約5,000体の円空仏が見つかっていますが、寛文3(1663)年に彫られた、神明神社(郡上市美並町)の天照皇大神像など

3体が、これまで発見されてきた円空仏の中で、最初期像と見られています。元禄3(1690)年には、高山市上宝町の観音堂で、十一面観音など3体を彫りました。そのうちの今上皇帝像の背面には、「元禄三年九月廿六日 当国万仏十マ仏作已」と墨書されており、「全国で十萬体作り終わつたこと」を意味しています。元禄8(1695)年、住職を務めていた弥勒寺(関市)の近くの長良川河畔で没するまで、その歩みを止めることはな

かったと伝えられています。円空仏の魅力は、慈愛に満ちた「ほほ笑み」や、木という素材の魅力を生かしたダイナミックな立体構成などにあります。またその像容からは、迷いがなく、貫つという姿勢が感じ取れます。

円空は、病や災害などの苦しみから民衆を救うために仏像を作り、安らぎを与えました。また、広い廻国の修行は、偉大な法の教えを一人でも多くの人々に布教したいとの願いからだったのでしょう。